

魚を釣ろう！

環境

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

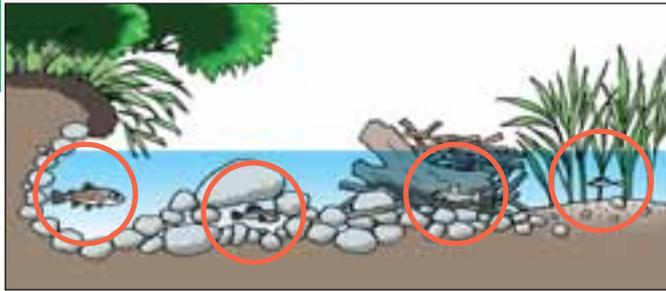
第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

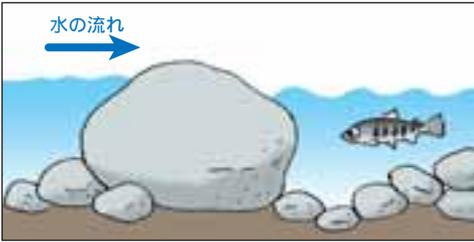
第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん



魚のいるポイントの例。岸がえぐれて、上から草や木の枝がはり出したところ、うき石(1)の下、流木などのものかげ、水草の中。



大きな石の下流側も。

魚を釣ることが、何といても一番簡単で楽しい川とのつきあい方でしょう。

魚を釣るためには、まず魚のいそうなところ(ポイント)を確かめて、その近くに釣り針とエサをたらすことが大切です。

魚は、石や水草、あるいはおおいかぶさった木や岸などのかげにすることが多いようです。

また、道具をそろえる釣りもいいですが、釣り針と釣り糸、それにおもりがあれば、あとは川辺の草むらにある「道具」を使って釣ることもできます。

あるいは、水草にかくれている小さな魚は、タモ網でつかまえることもできます。

ただし、楽しさに夢中になって川のおそろしさを忘れないように。(p221)



川の中にある石をひっくり返すと、虫がいる。



ヒゲナガカワトビケラ。



エルモンヒラタカゲロウ。

エサは釣るところで見つける

多くの川魚は、水の中の虫や水に落ちてきた虫を食べています。ですから、釣るところにいる虫を使えば、とてもいいエサになります。

浅いところに入って、石をいくつかひっくり返してみましよう。チョロチョロとにげまわるカゲロウの幼虫や、砂つぶなどで巣を作っているトビケラの幼虫がいます。これらの虫を釣り針にさして、エサにしましょう。

かれたイタドリをサオにして

エサを見つけたら、サオも探しましょう。イタドリという草を知っていますか？ 背が高く、葉っぱが大きな草なのですが、かれたクキはじょうぶで、つえになるくらいです。

これをサオにすることができるのです。短い糸のついた釣り針と釣り糸とおもりは用意しましょう。糸のはしにチチワをつくりましよう。釣り針を釣り糸につなげ、釣り糸をイタドリのクキの先につけましよう。(223 ページ) 次に、かれたヨモギのクキを 10 cm くらいに切って、糸をはさみこめば、ウキや目印になります。(223 ページ) さあ、ハりにエサをつけて、水の中にたらしましよう。あまり大物は、釣り上げられませんが、20cm くらいのウグイならだいじょうぶです。



イタドリのサオで釣り。魚がヒット！

1 うき石(うきいし・浮き石): 水中のグラグラした石。すきまができる。

チョウチン釣り・石下釣り・のぞき釣り

木の枝が川岸から水面にかぶさっているところは、魚がいるポイントですが、釣り針を投げ入れるのがむずかしい場所です。

チョウチン釣りは、釣り糸の長さを短くして、こうした枝かげの魚を釣る方法です。釣り上げるのが難しいのですが、釣れたとき、とてもうれしい釣り方です。

水中めがねがあったら、のぞき釣りをしましょう。

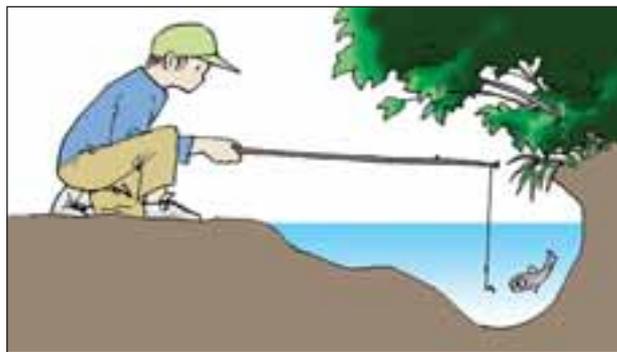
短めのサオを持って水の中に入り、顔を水の中につけて魚のようすを見ながら釣る方法です。魚がエサに食いつくところが見られると、なかなか興奮します。

川底にある石の下にかくれている、カジカなどの魚を釣る時には石下釣りをします。

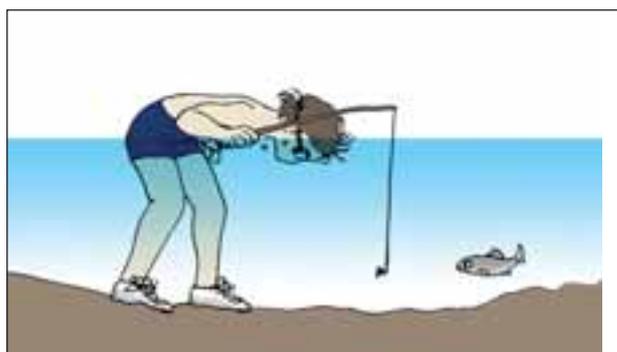
木の枝に30cmくらいの釣り糸をつけたしかけを使います。枝先ごと水の中に入れ、川底にうまっていない石（うき石）の下にエサを流し入れるのです。



石下釣り。カジカはきれいな水で浅い流れの石の下にいる。エサを上流側から、そっと流しこむ。



チョウチン釣り。木の枝の下は、かくられる上に、虫や葉っぱが落ちてくるので、エサも多くある。

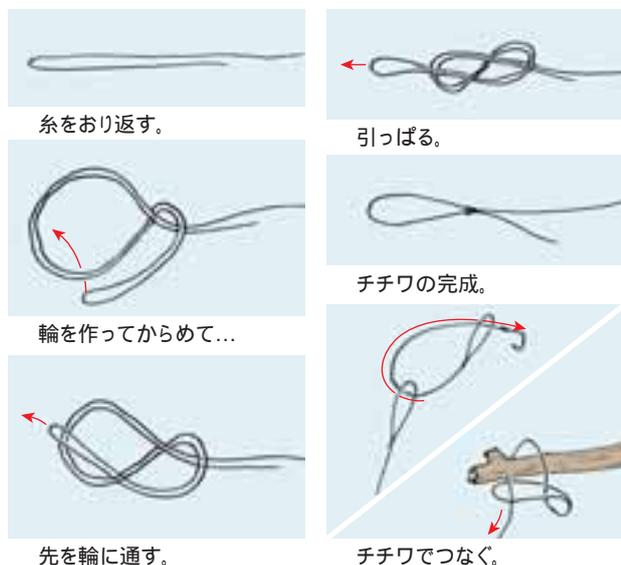


のぞき釣り。魚に用心させないことが大切。夢中になって転んだり流されたりしないように。

アドバイス：倉田亜以士氏（(有) ペイトソン）

もう少し細かいこと

チチワ結びとつなぎ方



ヨモギのクキのウキ（目印）

ウキやみやく釣り用の目印にも、自然のものが使えます。ヨモギのクキをおりとって釣り糸をはさみこめば、りっぱなウキとなります。



（上）おったヨモギのクキのスジに釣り糸をはさみこむ。

（左）かれたヨモギ。

2 みやく釣り（みやくづり・脈釣り）：ウキを使わないで、サオから手に伝わってくる感覚や、釣り糸につけた目印の動きなどでアタリをとる釣り方。